

平成29年度 花火産業構想アクションプラン 事業実績

施策1 花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくり

No.	事業名称	平成29年度の実施内容	評価	KPI (29年度)	29年度決算額	推進 交付金 の活用
1-1	大仙市花火伝統文化継承事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループ「花火伝統文化継承プロジェクト」との協働により、花火関連資料を収集し仙北中学校旧合宿所に整理・保管 ・資料のデジタル化作業を継続。プログラム、ポスターを中心に5,600点(39.3%)が完了 ・「大曲村年中行事絵巻物」を修復(大仙市指定有形文化財) ・資料館専用ホームページを制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年3月末時点で14,318点の資料を収集。平成30年8月までの目標1万点を達成し、収集を継続中 	——	7,204千円	—
1-2	(仮称)花火伝統文化継承資料館整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・建設工事(29年6月～30年5月) ・勤労青少年ホーム解体工事実施設計(29年12月～30年3月) ・資料館愛称募集、「はなび・アム」に決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月5日の開館に向け計画通り進捗している 	——	503,134千円	—
1-3	花火文化資料展示事業(大仙市産業展示館等での企画展示)	<ul style="list-style-type: none"> ・新施設整備に向けて常設展示及び企画展示の内容を検討。産業展示館については、空調やトイレ、蔵などの改修箇所を選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月5日の開館に向け計画通り進捗している 	——	——	—
1-4	花火イベント等情報発信事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市コミュニティFM「FMはなび」で花火大会や鑑賞方法に関する情報番組「花火の星」等を毎週月曜26:00～26:30、毎週木曜21:00～22:00に放送(月曜放送は全国ネット放送) ・「大曲の花火春の章」「全国花火競技大会」、「大曲の花火秋の章」、「新作花火コレクション(冬の章)」で会場から生中継を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・花火専門番組「花火の星」は花火愛好者に人気を得ている。全国ネット放送やインターネット視聴により、市外・県外からの反響も大きい ・観覧会場以外で花火を観る人を中心に、ラジオの生中継を聴きながら花火を楽しむスタイルが普及しつつある 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光入込客数(目標)275.0万人(実績)276.6万人 	2,938千円	○
1-5	まちなか花火デザイン導入事業	(平成29年度は取組内容なし)	——	——	——	—
1-6	まちなか花火シアター事業	<ul style="list-style-type: none"> ・大曲ヒカリオの健康福祉会館壁面を使い、第16回国際花火シンポジウム歓迎イベント(4月23日)、閉会式後(4月28日)、カウントダウン花火開催時(12月31日)等に花火映像を映写 	<ul style="list-style-type: none"> ・大曲ヒカリオのイベントにあわせ、継続的に映写し、花火大会等の観光客の増加につなげる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光入込客数推移 H26年度 263.1万人 H27年度 261.6万人 H28年度 264.3万人 H29年度 276.6万人 	——	—
1-7	花火庵運営事業(中心市街地にぎわい創出事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の賑わい交流施設「花火庵」を設置。NPO法人大曲花火倶楽部による資料展示スペース「大曲花火屋」の開設などで花火情報を発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国花火競技大会時の花火セミナー会場、花火鑑賞士制度のPRの場等として活用が図られた 	——	3,743千円	—
合 計					517,019千円	

施策2 花火を支える人材育成・研究開発の場の創出

No.	事業名称	平成29年度の取組内容	評価	KPI(29年度)	29年度決算額	推進 交付金 の活用
2-1	花火師育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・8月28日～9月1日、火薬類取扱保安責任者の資格取得講座を開催。市内花火会社から7人が受講し、9月3日の試験で5人が資格取得 ・高校生向けに足利工業大学煙火学出前講座を開催(9月12日～13日、大曲工業高校、大曲農業高校、六郷高校) ・花火師向けスキルアップ講座を開催。受講者82人(3月20日、職業訓練センター) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「取扱」の資格取得講座は2回目ということもあり受講者数の目標には達しなかったが、資格取得講座を含む人材育成については花火会社からの要望もあり、内容を検討しつつ継続したい 	<ul style="list-style-type: none"> ■火薬類製造(取扱)保安責任者資格者数 (目標)10人 (実績)5人 	562千円	○
2-2	花火師確保支援事業	(資格講座の受講者全員が花火会社従業員であったため、マッチング事業は未実施)	——	——	——	—
2-3	花火の共同研究・開発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・大曲の花火協同組合に委託し、足利工業大学と連携した「桜色」及び「硫酸バリウムを用いた緑色」の研究開発を実施 ・大学が提供したサンプル配合比で市内花火会社が桜色、緑色の花火を製作。3月24日の新作花火コレクションで各社が配合比に基づく試作玉の打ち上げを行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜色、緑色とも、さらに検証することによって理想とする色に近づけることが期待できる ・緑色の開発において、過塩素酸カリウムにより点滅効果を得られたことが偶然にも大きな成果となった ・足利工業大学との3年間の共同研究成果を活かし、各社が引き続き研究・開発に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ■花火の研究による試作玉開発数 (目標)4種類 (実績)2種類 	1,951千円	○
2-4	花火学習プログラム展開事業	<ul style="list-style-type: none"> ・四季の花火の展開に伴い、全国花火競技大会開催時に行われている「花火鑑賞士による花火セミナー」を大曲の花火一秋の章に合わせて開催 ・第16回国際花火シンポジウムではプレゼンテーションの場で日本花火鑑賞士会による同会の活動紹介が行われた 	<ul style="list-style-type: none"> ・花火セミナーは花火打ち上げ開始までの日中の過ごし方のひとつとして提案しており、より花火に理解を深め、次回以降も継続して訪れるきっかけとなりうる ・継続的、安定的なセミナー開催のため、講師を担う人材の確保が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光入込客数 (目標)275.0万人 (実績)276.6万人 	——	—
合 計					2,513千円	

施策3 日本屈指の花火製造・打上技術を基盤とする新たな花火生産拠点づくり

No.	事業名称	平成29年度の取組内容	評価	KPI(29年度)	29年度決算額	推進交付金の活用
3-1	花火工場運営会社設立事業	(平成27年度で事業完了)	——	——	——	——
3-2	花火生産拠点整備事業(工場・事務所・研修施設)	・平成29年4月11日に煙火製造工場が竣工し、5月から煙火製造、県内業者への販売を開始。平成30年1月からは県外業者への販売を開始	・出荷数の増加に向け品質向上と供給力の強化を図る必要がある	■花火生産拠点での花火玉出荷数 0発(H26) →15,851発(H29) →330,000発(H31目標)	——	——
3-3	花火生産拠点整備事業(用地造成・雇用助成)	(平成28年度までに用地造成は事業完了) ・(株)花火創造企業に対し市は雇用助成を実施	・年次計画により概ね計画通りに新規雇用を実施している	■花火生産拠点での雇用人数 0人(H26) →14人(H29) →26人(H31目標) ■既存花火会社を含む大仙市内の煙火出荷額 7億600万円(H25) →9億2,940万円(H29) →9億3,700万円(H31目標)	800千円	——
3-4	花火イベント企画運営サポート事業	・大曲の花火―春の章―、第91回全国花火競技大会、大曲の花火―秋の章―で観覧会場設営運営・会場管理業務、打揚会場管理業務、海外花火業者招聘業務などの運営サポートを実施	・引き続き各花火大会の運営を手掛けるとともに、市内外における花火イベントの企画提案・運営を行い、収益事業の拡大を目指す	——	——	——
合 計					800千円	

施策4 花火ブランドを活かした観光・商業・農業振興策の強化・拡充

No.	事業名称	平成 29 年度の取組内容	評価	KPI (29 年度)	29 年度決算額	推進 交付金 の活用
4-1	花火工場と周辺既存施設を活用した通年観光の推進事業	(平成 29 年度は取組内容なし)	——	——	——	—
4-2	「花火のまち・大仙」キャラバン隊事業	<ul style="list-style-type: none"> ・第 16 回国際花火シンポジウム開催記念「花びまつり」(4 月・仙台市)、世田谷区「せたがやふるさと区民まつり」(8 月)、有楽町駅前広場「大仙市ふるさとフェア」(11 月)、首都圏や仙台圏で本市の観光物産をPRするキャラバン活動を実施 ・大曲エキまつり、旧池田氏庭園及び払田分家庭園ライトアップなど着地型イベントを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏でのキャラバン活動により徐々に認知度向上が図られているが、今後はそれぞれ実施している着地型イベントを他地域、他自治体とリンクし、一つのコースとする仕掛けが必要である ・「花びまつり」、「大仙市ふるさとフェア」は仙北市及び美郷町からも協力していただき、観光物産PRを広域圏として行った 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光入込客数 (目標) 275.0 万人 (実績) 276.6 万人 ■観光入込客増加による経済波及効果の増加額 (目標) 25 億 2,700 万円 (実績) 17 億 4,500 万円 	首都圏等 PR 6,743千円 着地型イベント 494千円	○
4-3	花火の観光商品開発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏等からの旅行者を対象に花火や祭りとともに大仙市ならではの食事を楽しんでもらうモニターツアーを催行 	<ul style="list-style-type: none"> ・花火大会と組み合わせた体験ツアーは参加者から好評を得ている 	——	——	—
4-4	「HANABI」インバウンド推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・第 16 回国際花火シンポジウムの開催に合わせ、主要観光エリアや宿泊施設などに外国語表記の案内板や Wi-Fi 環境、クレジット決済端末等を整備 ・(株)あきた食彩プロデュース台湾事務所に大仙市観光物産協会職員を派遣し、観光商品・特産品等の販路開拓、関係機関との人脈作りを実施 ・台湾旅行エージェントとの商談会(11 月)、仙北市、美郷町及び本市の首長と議長等による台湾トップセールス(1 月)、タイ旅行エージェント招聘商談会(3 月)に参加 ・大曲の花火ー秋の章ーに合わせ、台湾のメディア関係者及び旅行エージェント関係者を招聘 ・多言語版の観光 PR 映像を制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の受入環境整備については、今後のインバウンド推進事業の進展に合わせて継続していく必要がある ・派遣職員が旅行博や食品商談会などの企画運営や秋田県関係者訪台時のアテンド等に携わることで人脈構築が図られた。エージェント商談会には現地参加し、1 月トップセールス時の旅行エージェント訪問に繋がった ・台湾の雑誌記者、ブロガー等から秋の章が紹介されたほか、旅行エージェントから旅行商品の提案を得ることができた 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光入込客数 (目標) 275.0 万人 (実績) 276.6 万人 ■観光入込客増加による経済波及効果の増加額 (目標) 25 億 2,700 万円 (実績) 17 億 4,500 万円 	環境整備事業 11,880千円 台湾職員派遣 5,970千円 商談会参加 1,470千円 招聘事業 2,200千円 PR映像制作 12,039千円	—
4-5	花火ブランド一元化組織づくり事業	(平成 29 年度は取組内容なし)	——	——	——	—
4-6	「花火のまち・大仙」のアンテナ・ショップ整備事業	(平成 29 年度は取組内容なし)	——	——	——	—

No.	事業名称	平成 29 年度 of 取組内容	評価	KPI (29 年度)	29 年度決算額	推進 交付金 の活用
4-7	「花火のまち・大仙」の「ひとくちお土産」開発事業	・平成 28 年度に策定したブランドコンセプトに基づく新ブランド「秋田・大仙 せんのぜん」が完成し、大仙市産農水産物を原材料とする 7 商品がブランド認証、商品化された	・意欲ある参加事業者との官民一体の取り組みにより、ブランドネーミング、ロゴマークが完成した ・商品数が手薄なため、広く事業者へ参加を呼びかけ、商品の拡充を図りたい	■お土産売上額 (目標) 28,100 千円 (実績) 27,004 千円	5,372千円	○
4-8	花火のまちのまるごとスタンプラリー開催事業	・大仙市商工会が市内 4 花火大会(8 月「全国花火競技大会」、9 月「神岡南外花火大会」、10 月「大曲の花火-秋の章-」、2 月「太田の火まつり」)を巡るスタンプラリーを実施し、154 人が応募。内訳は市内 29 人、県内他市町村 62 人、県外 63 人	・県外からの応募が 4 割を占め、集客に一定の効果があったと考えられる ・全スタンプを集めた方全員へ特別賞として大仙市の特産品を贈呈し、大仙市のPRとともに地元産商品を周知する機会にもなった	■観光入込客数 (目標) 270.0 万人 (実績) 276.6 万人	1,018千円	—
4-9	「花火のまち・大仙」のネット・カタログ通販開発事業	・大仙市観光物産協会が平成 28 年度に引き続き楽天市場内に「大仙市公式アンテナショップ」を出店し、インターネット販売を実施。年間売上額は 3,295 千円(前年比 512 千円増)、販売件数は 1,020 件(前年比 271 件増)、平均客単価は 3,230 円(前年比 486 円減)	・ネットショップの売件数は伸びているが、売上増加とともに客単価を上げる定期的な広告掲載やポイントアップキャンペーン等の工夫が必要である	■お土産売上額 (目標) 28,100 千円 (実績) 27,004 千円	—	—
4-10	「メイドイン大仙」の花火玉原料開発・普及事業	・大仙市観光物産協会に委託し、秋田県立大学及び大曲の花火協同組合と共同で花火用に適したマツ炭の製造条件について研究 ・大仙市観光物産協会が事業主体となり、新たに導入した人工窯 4 基を使用し、花火玉原料用のマツ炭の本格生産に着手	・研究事業では人工窯により製炭したアカマツについて、花火玉の原料として利用できることのほか、クロマツの正常木及び枯死木についても活用できることが確認された ・マツ炭本格生産にあたっては製品の品質を確保するとともに、実需者が求める数量を安定供給していくことが必要	■原料の研究による 試作玉開発数 (目標) 2 種類 (実績) 1 種類	生産設備導入 16,034千円 研究事業 3,325千円 生産運営費補助 1,353千円	○
4-11	「大曲の花・美(はな・び)」開発事業	・平成 27 年度の 4 品種、平成 28 年度の 2 品種に加え、新たに「橙炎(とうえん)」「花紫音(はなしおん)」の 2 品種を開発し、大曲の花火ダリアは計 8 品種となった ・JA 秋田おばこにより苗の増殖が行われ、ダリア部会員への栽培普及が進められている ・県立農業科学館で栽培を開始	・大曲の花火ダリア 10 点のラインアップ整備に向けて順調に開発・増殖が推移。実需者への周知や市場評価を高め、地域ブランド化を目指す	■お土産売上額 (目標) 28,100 千円 (実績) 27,004 千円	4,151千円	○

No.	事業名称	平成 29 年度の取組内容	評価	KPI (29 年度)	29 年度決算額	推進 交付金 の活用
4-12	国際花火シンポジウム誘致推進事業	・平成 29 年 4 月 24 日から 29 日まで、第 16 回国際花火シンポジウムを開催し、38 の国と地域から 449 人の参加があった。花火に関する研究発表やグループ討論のほか、トレードショウ、付帯イベントが実施され、期間中に「大曲の花火ー春の章ー」を同時開催	・「花火のまち」を標榜する本市にとって大変意義の大きい事業となった。シンポジウムの効果を一過性のものとせず、世界中から本市を訪れていただく新たな企画を検討し、インバウンド観光を推進していく必要がある	■観光入込客数 (目標) 275.0 万人 (実績) 276.6 万人	145,062千円	—
4-13	大曲の花火ウィーク開催事業 (だいせん「花火」と「食」のおもてなし事業)	・8 月 20 日、24 日、25 日に「大曲の花火」開催に合わせ丸子橋特設会場で実施。内容は『至福の花火』、『街中音楽 Show』、『マーチングフェスタ』、『ご当地グルメ王国秋田』など	・花火大会に訪れる多くの観光客から、本市の地域資源と中心商店街等の魅力を広く認識していただき、継続的な賑わい創出につなげていく必要がある	—	6,256千円	—
4-14	市内で開催される花火大会等への運営支援	・大曲の花火「春の章」「秋の章」をはじめ、計 12 の市内各花火大会やイベントにおいて、運営費補助の交付または花火打上委託を実施	・「毎月花火が打ち上がるまち」として、スタンプラリー開催事業等と組み合わせ、市外からの観光客増加を目指す必要がある	■観光入込客数 (目標) 275.0 万人 (実績) 276.6 万人	14,867千円	—
4-15	「花火のまち・大仙」を支える応援購入制度	(平成 29 年度は取組内容なし)	—	—	—	—
合 計					238,234千円	